

# 病害虫発生予察情報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 6月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（葉いもち）	並	並	果樹	果樹全般	カメムシ類	並	—
	紋枯病	やや少ない	並		りんご	褐斑病	多い	—
	斑点米カメムシ類					輪紋病	やや多い	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	多い	—			ハダニ類	多い	—
	アカスジカスミカメ	多い	—			キンモンホソガ	並	—
	トゲシラホシカメムシ	やや多い	—			カイガラムシ類	多い	やや早い
	ニカメイガ（第一世代）	並	早い			日本なし	黒星病	並
	イネミズゾウムシ	多い	—		輪紋病		やや多い	—
	イネドロオイムシ	並	並		ナシヒメシンクイ		やや多い	—
	ツマグロヨコバイ	並	並		ハマキムシ類		多い	—
大豆	茎疫病	並	並	カイガラムシ類	多い	やや早い		
	タネバエ	並	並	ハダニ類	多い	—		
	ネキリムシ類	並	—	ぶどう	灰色かび病	並	—	
野菜	野菜全般	タバコガ類	並		べと病	並	—	
		ネキリムシ類	並	—	かき（三社）	フジコナカイガラムシ	少ない	—
	白ねぎ	さび病	やや少ない	並	もも	せん孔細菌病	並	—
		ネギアザミウマ	並	—		カイガラムシ類	やや多い	やや早い
	ネギハモグリバエ	並	並	花き	チューリップ	球根腐敗病	やや多い	—
						アブラムシ類	並	—

発生量	予報時期
多い : 平年比 141%以上	早い : 平年値より 6 日以上早い
やや多い : 平年比 121%以上 140%以内	やや早い : 平年値より 3～5 日早い
並 : 平年比 80%以上 120%以内	並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内	やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い
少ない : 平年比 59%以下	遅い : 平年値より 6 日以上遅い
予報の根拠中の	
(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因	
(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。	

# I 水 稲

## 1 いもち病 (葉いもち)

(1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・近年のいもち病の被害は少ない傾向にある。(－)
- ・6月23日にかけての降水量は平年並か多い見込みで、気温は平年並か高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・放置されている補植苗は、速やかに処分する。
- ・平年の初発日は7月10日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）に基づき、ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努める。
- ・防除指針：31～32 ページ参照



図1 いもち病の病斑



BLASTAM 情報  
(毎週火曜更新)

## 2 紋枯病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年9月5日調査では発病株率が4.4%で平年(9.0%)より低かった。(－)

(3) 防除対策

- ・平年の初発確認日は6月26日であることを踏まえて、ほ場の見回りを行う。
- ・防除指針：30～31 ページ参照



図2 紋枯病のり病株

## 3 斑点米カメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメ)

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は3.1頭で平年(1.1頭)より多かった(図4)。(＋)
- ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
- ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・防除指針：43、45ページ参照



図3 アカヒゲホソミドリカスミカメ (成虫)

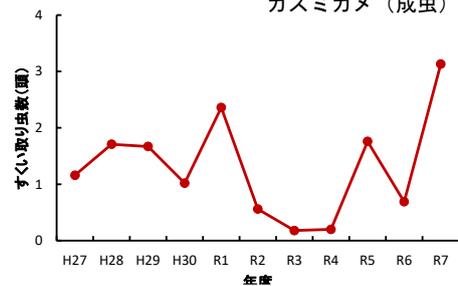


図4 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移(5月20日調査)

#### 4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は17.8頭で平年（2.2頭）より多く（図6）、確認地点率は86.7%で平年（33.2%）より高かった。（+）
- ・ 6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。（+）
- ・ 6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（-）

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・ 防除指針：43、45ページ参照



図5 アカスジカスミカメ（成虫）

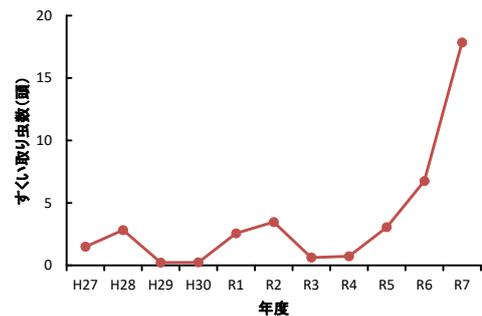


図6 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移（5月20日調査）

#### 5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.13頭で平年（0.05頭）より多く（図8）、確認地点率は8.9%で平年（4.4%）より高かった。（+）
- ・ 6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。（+）
- ・ 6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（-）

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・ 防除指針：44～45ページ参照



図7 トゲシラホシカメムシ（成虫）

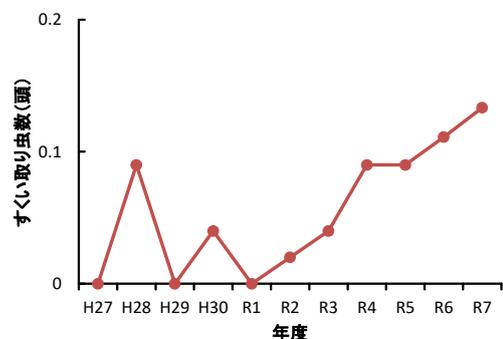


図8 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移（5月20日調査）

## 6 ニカメイガ（第1世代）

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の越冬前10 a 当り生幼虫数は423頭で平年(233頭)より多かった。(+)
  - ・フェロモントラップによる5月1半旬から5半旬までの誘殺数は62.6頭で、近年値並(60.4頭)であった。(図10)。(±)
  - ・第1世代の飛来最盛期は5月4半旬と考えられ、平年より1半旬早いと考えられる。(早発)

(3) 防除対策

- ・前年に被害が多かった地域では、幼虫の発生がだらつくため、箱施薬剤を施用した場合でも必要に応じて適期に本田防除を行う。
- ・防除指針：38～39 ページ参照



図9 ニカメイガ（幼虫）（左）と心枯れ被害（右）

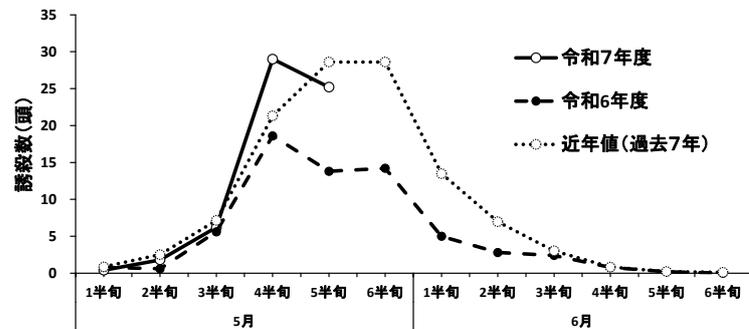


図10 ニカメイガフェロモントラップへの誘殺数の推移

## 7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・5月20日の調査では、被害葉率5.3%で平年(0.8%)より高かった(図12)。(+)
- ・近年、イネミズゾウムシによる被害は増加傾向にある(+)

(3) 防除対策

- ・成虫の食害による被害が大きいほ場では、早めに中干しを行う。
- ・防除指針：37 ページ参照



図11 イネミズゾウムシ（成虫）と食害

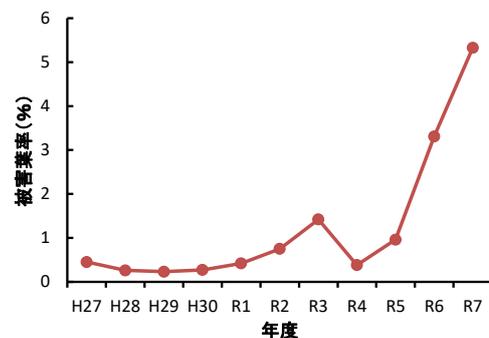


図12 イネミズゾウムシの被害葉率年次推移(5月20日調査)

## 8 イネドロオイムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 5月20日の調査では被害は見られなかった。(－)
  - ・ 6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：38 ページ参照



図13 イネドロオイムシ（幼虫）と食害

## 9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 越冬後調査のすくい取り虫数は0.0頭で平年並（0.2頭）であった。(±)
  - ・ 6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
  - ・ 6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：40ページ参照



図14 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）と雄成虫（下）

# II 大豆

## 1 茎疫病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の発生量は少なかった。(－)
  - ・ 6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 種子消毒は茎疫病に登録のある剤を用いて確実に行う。
  - ・ ほ場の排水に努める。
  - ・ 防除指針 54～55 ページ参照



図15 茎疫病による茎の褐変症状

## 2 タネバエ

- (1) 予報内容            発生量：並  
                              発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・種子消毒が徹底されている。(－)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・タネバエに登録のある剤を用い、種子消毒を確実に行う。
  - ・早期播種や堆肥施用及び緑肥のすき込みほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
  - ・ほ場の排水に努める。
  - ・防除指針 54、56 ページ参照

## 3 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

- (1) 予報内容            発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる5月1半旬から5半旬までの誘殺数は、タマナヤガが15.1頭で平年(21.3頭)よりやや少なく、カブラヤガは107.8頭で平年並(94.8頭)であった。(±)
- (3) 防除対策
- ・ネキリムシ類に登録のある剤を用い、種子消毒を確実に行う。
  - ・出芽後は、定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
  - ・ほ場周辺の雑草は、播種の一週間程前に刈り取る。
  - ・茎切断率が15%を超える場合には随時防除を行う。
  - ・防除指針 54 ページ参照



図 16 カブラヤガ (左) とタマナヤガ (右)

## Ⅲ 野 菜

### 1 タバコガ類 (タバコガ、オオタバコガ)

- (1) 予報内容            発生量：並  
                              発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・タバコガのフェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、0.3頭で平年(0.9頭)より少なかった。(－)
  - ・オオタバコガのフェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、2.3頭で平年並(2.0頭)であった。(±)
  - ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・防除指針 69～130 ページのタバコガ類の項参照

## 2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる5月5半旬までの誘殺数は、タマナヤガが15.1頭で平年(21.3頭)よりやや少なく、カブラヤガは107.8頭で平年並(94.8頭)であった。(±)
- (3) 防除対策
  - ・茎切断率が15%を超える場合には随時防除を行う。
  - ・防除指針 71～132 ページのネキリムシ類の項参照

## 3 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・5月25日の調査では被害株率が1.6%で平年(3.0%)より低かった。(－)
  - ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(－)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 99 ページ参照



図17 さび病の葉の病斑（夏孢子）

## 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・5月25日の調査では被害株率が1.6%で平年(16.2%)より低かった。(－)
  - ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
  - ・土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤は抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
  - ・防除指針 101～102 ページ参照



図18 ネギアザミウマの被害葉

## 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 5月25日の調査では、被害株率が2.4%で平年(7.3%)より低かった。(－)
- ・ 6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
- ・ 6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤は抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針 100～101 ページ参照



図19 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

## IV 果樹

### 1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は7.6頭で、平年並(6.9頭)であった。(±)

(3) 防除対策

- ・ 発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系、有機リン系殺虫剤等)を散布する。
- ・ 防除指針：りんご 136、142、145～146 ページ、日本なし 148、153、156～157 ページ  
ぶどう 159、163 ページ、かき 164、167～168 ページ  
もも 170～171、174 ページ参照



図20 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

## 2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は多かった。(+)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策



図 21 葉の初期病斑（左）進行した病斑（右）

- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：136、138～140、144～145 ページ参照

## 3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・防除指針：136、139～140、144～145 ページ参照

## 4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(+)
  - ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(+)

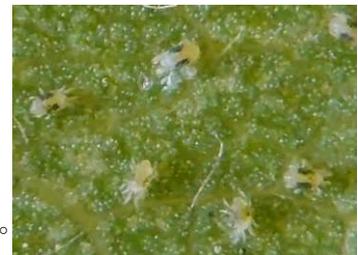


図 22 ナミハダニ（成虫）

- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
  - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
  - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
  - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
  - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RAC コードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
  - ・防除指針：136、142～143、145～146 ページ参照

## 5 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は2.0頭で平年並（2.2頭）であった。（±）
- (3) 防除対策
- ・6月上旬（第1世代成虫発生盛期）は重要防除時期なので適期防除に努める。
  - ・防除指針：136、141～142、145 ページ参照



図23 キンモンホソガによる被害葉

## 6 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は多かった。（+）
  - ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。（+、早発）
- (3) 防除対策
- ・6月1～2半旬（第1世代歩行幼虫発生盛期）は重要防除時期なので、アプロードフロアブル（1,000～1,500倍）を確実に散布する。
  - ・防除指針：136、141～142、145～146 ページ参照

## 7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は少ない。（-）
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・り病した果実や葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・防除指針：148～152、155 ページ参照



図24 日本なしのり病幼果

## 8 日本なしの輪紋病

- (1) 予報内容            発 生 量 : **やや多い**
- (2) 予報の根拠
  - ・前年の発生量は平年並であった。(±)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
  - ・防除指針：148、150～152、155 ページ参照

## 9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容            発 生 量 : **やや多い**
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は13.5頭で平年(8.4頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・6月2半旬(第1世代成虫発生盛期)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
  - ・防除指針：148、152～153、156～157ページ参照

## 10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容            発 生 量 : **多い**
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は4.6頭で平年(3.2頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
  - ・5月4～5半旬(越冬世代成虫発生盛期)の7～10日後に防除を実施する。
  - ・防除指針：148、152～153、156～157 ページ参照

## 1 1 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容            発生量：**多い**  
                              発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。（+）
- ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。（+、早発）

(3) 防除対策

- ・6月1～2半旬（第1世代歩行幼虫発生盛期）は重要防除時期なので、アプロードフロアブル（1,000倍）を確実に散布する。
- ・防除指針：148、152～153、156～157 ページ参照

## 1 2 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容            発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。（+）
- ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
- ・防除指針：148、153～154、156～157ページ参照

### 1 3 ぶどうの灰色かび病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・6月上旬は重要防除時期なので、散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・新梢管理を行い棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・防除指針：159～162ページ参照

### 1 4 ぶどうのべと病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・り病した花穂や葉などは伝染源となるため、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：159～162ページ参照

### 1 5 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月1～3半旬の誘殺数は7.5頭で、平年(78.9頭)より少なかった。(－)

(3) 防除対策

- ・6月下旬～7月上旬（第1世代歩行幼虫発生期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：164～165、167～168ページ参照



図 25 フジコナカイガラムシ（雌成虫）

## 16 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は少ない。(－)
  - ・6月23日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・果実への感染を防ぐため、6月中旬までに袋掛けを終了する。
  - ・発生が多い園地では速やかに袋掛けを終了し、ICボルドー412(50倍)を散布する。ただし、薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。
  - ・防除指針：170～171、173ページ参照

## 17 もものカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
  - ・6月23日にかけての気温は平年並か高いと予想されている。(＋、早発)
- (3) 防除対策
- ・6月1～2半旬(第1世代歩行幼虫発生盛期)は重要防除時期なので、アプロード水和剤(1,000倍)を確実に散布する。
  - ・防除指針：170～172、174ページ参照

## V 花き・球根

### 1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・植付け時(10月下旬、11月上旬)の地温が高めに推移した。(＋)
  - ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。(＋)
  - ・6月23日にかけて気温は平年並か高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・り病株の抜き取りを徹底する。
  - ・適期の掘取りに努める。
  - ・掘取り後は速やかに水洗・乾燥する。
  - ・防除指針：188ページ参照



図26 球根腐敗病り病株  
(生育期後半の症状)

## 2 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日の調査では、チューリップ予察ほ場（無防除）において黄色水盤1個当たりのアブラムシ有翅虫飛来数が69.0頭と平年並（63.5頭）であった。（±）

(3) 防除対策

- ・ アブラムシはチューリップモザイク病を伝播するため、病株の抜き取りを徹底する。
- ・ 生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
- ・ 防除指針：189、211～212 ページ参照



図27 チューリップに寄生する有翅アブラムシ

### 令和7年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月1日～9月30日」

### 令和7年度水田畦畔等の草刈り運動について

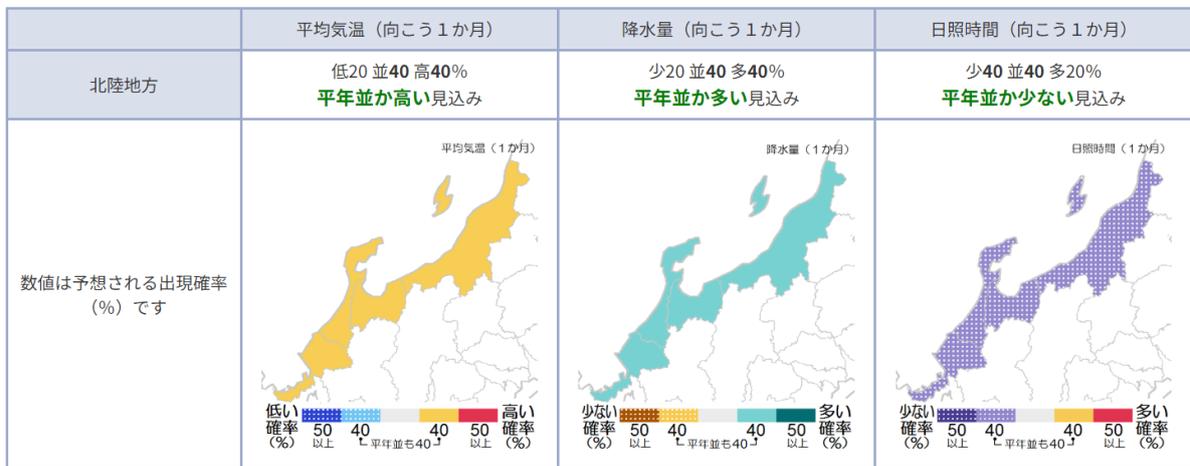
- 斑点米や着色米の発生を防ぐため、カメムシ類や病原菌の発生場所である畦畔や雑草地の草刈りを県下全域で徹底する
- 運動期間 6月27日（金）～7月6日（日）
- 一斉草刈り日 6月28日（土）～6月29日（日）

## 北陸地方 1か月予報

5月22日  
新潟地方气象台 発表

### <向こう1か月（5/24～6/23）の天候の見通し>

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。  
1週目の気温は低くなりますが、その後は高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう
- ・ 前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年並か少ないでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

